

講習会名 にいがた摂食嚥下障害サポート研究会講演会
新潟大学大学院医歯学総合研究科 共催
一般社団法人 新潟県歯科衛生士会 後援
新潟県歯科医師会 後援
新潟県言語聴覚士会 後援

講演名 専門職からみた嚥下障害への思いⅡ

講演者 東邦大学 海老原 覚 教授
至誠堂総合病院 児玉 俊恵 先生
新潟大学 井上 誠 教授
高橋歯科医院 高橋 堅護 先生

日 時 平成 26 年 5 月 25 日 (日) 午後 1 時から 4 時

場 所 新潟大学 有壬記念館

参加者数 95 名

参加企業 7 社

概 要

本講演会では、「専門職からみた嚥下障害への思いⅡ」と題して、医師および歯科衛生士の先生方にご講演いただいた。

海老原覚先生は、「感覚刺激を利用した誤嚥防止の新しい方法」としてカプサイシン、メンソール、黒胡椒といった TRP 受容体を標的とした新たな嚥下障害の治療法について説明された。また、脳機能イメージング研究から口腔刺激が島皮質の活動性を上げ、このことが口腔ケアによる肺炎予防効果の一因となっている可能性を解説された。さらに、様々な感覚刺激を併せた食事再開のための治療プロトコールおよび本年 1 月に就任された東邦大学病院における摂食嚥下障害患者の診療システムについてもご紹介いただいた。

児玉俊恵先生（至誠堂総合病院）には、リハビリテーション科に所属する歯科衛生士の診療の様子を、写真を交えて臨場感あふれるお話をしていただいた。歯科・歯科医師のいない病院において、いかにして口腔ケアの重要性を病院に広めていったか、当時の苦労も含めてお話いただき、会場からは共感のうなずきが多く見られた。

15分間の休憩時間では、フロアにおいてご協力いただいた7社の企業から、サンプル紹介や説明があり、大勢の参加者が興味深く聴き入っていた。

続いて井上誠先生から、「嚥下内視鏡登録医育成に向けた取り組み」についての概要説明があり、最後に高橋堅護先生（高橋歯科医院）より、自院での診療の様子を、症例報告を中心としてご紹介いただいた。

各講演終了時には、それぞれ様々な質問があり、活発な討論が行われた。

※別紙にアンケート結果を掲載

参加者によるアンケート結果（有効回答数 68 名）

1. 参加者の性別

男性 22 名 女性 46 名

2. 参加者の年齢層

20～29 歳 13 名 30～39 歳 22 名 40～49 歳 17 名
50～59 歳 12 名 60～69 歳 3 名 70 歳以上 0 名 無回答 1 名

3. 参加者の職業

学生 11 名 会社員・公務員 5 名 医療関係者 50 名 その他 2 名

4. 今回の講演は有意義なものでしたか.

まったくそう思う 82% まあまあそう思う 18% どちらともいえない他 0%

5. 今回の講演会はあなたの興味に対して適切でしたか.

まったくそう思う 71% まあまあそう思う 29% どちらともいえない他 0%

6. 講演内容の難易をどう感じましたか.

非常に分かりやすかった 47% 分かりやすかった 49%
どちらともいえない 3% あまり分かりやすくなかった他 0%
無回答 1%

7. 今後このような主旨の講演会を開催することについては

非常に賛成 97% 賛成 3% どちらともいえない他 0%

8. その他の意見

- ・ 分子生物学的アプローチ, 病院歯科衛生士の役割と様子, 大変興味深く貴重なお話だった.
- ・ 海老原先生内容より, 食事前のスパイス摂取により, 薄味・減塩が可能とあった. つまり, ダシの濃淡や味の濃淡によっても嚥下反射が改善するのかと感じた.
- ・ 児玉先生すごいです. 頑張ってください.
- ・ 嚥下リハには以前から興味があった. DHの取り組みや考えも聞くことができ
てよかった.
- ・ 今後も 様々な職種の方の話が聞きたい.

- ・ 小児分野に関する勉強会があればぜひ参加したい。
- ・ 新大での口腔リハでのアプローチ方法，アセスメント方法について聞いてみたい。
- ・ 会の方向が「飲み込み」に集中して向いているが，入院外での摂食嚥下のゴールは皆で一緒に食べ，食事を楽しむことと思う。「個食」にさせない意識も必要では。

講演会風景



